

文・写真 田中 広樹(海の観察会)

昔は須磨から泉南までずっと砂浜が続いていたのだと言われても、想像もつかないですが、阪南市の砂浜はほんの少しそれを想像させてくれる、とてもどかな風景がひろがっています。

南海尾崎駅から鳥取ノ荘駅までの間に、突堤で区切られた小さな砂浜が7つほどあり、それぞれ拾える貝に少しずつ違いがあるのが不思議です。砂浜観察会では、ミヤコボラの浜やサクラガイの浜と勝手に名付けて貝がら拾いを楽しんでいます、毎回50種を超える貝が拾えます。

おすすめは「新町のアマモ場」と呼ばれる小さな砂浜で、10年ほど前からアマモ場の観察会をしています。ヒメイカやワレカラ、ヨウジウオやカギノテクラゲなど、アマモ場ならではの生き物が毎年観察されるほか、ナメクジウオ、ギボシムシ、ムラサキガイ、マテガイなどの希少種が観察されることもあります。

岬町には淡輪海水浴場（せんなん里海公園の西半分）があり、砂地にすむウミホタルの観察会をしています。ここより西は転石海岸や岩礁が続き、砂浜はみられません。



新町のアマモ場にひろがる干潟(6月)



ハマボウフウ群落(大阪府絶滅危惧I類)

文・写真 田中 広樹(海の観察会)

大阪府内で磯あそびができる自然の磯といえば、ここが一番のおすすめです。難波からみさき公園駅まで45分、そこから歩いて20分。初心者でも安全に、様々な磯の生きものを観察することができます。魚類、貝類、海藻、カニ、ヤドカリ、エビ、ウミウシ、アメフラシ、タコ、ヒトデ、ナマコ、ウニ、イソギンチャクなど毎回の観察会でも50種以上、専門家による調査では300種以上の海岸生物が確認されているそうです。私はこれまで70回ほどこの海岸を訪れましたが、約75種ものウミウシを記録しており、その豊かさを物語っています。2018年5月の観察会では参加者の小泉真哉君が、大阪湾初記録となる「ナギナタコガネウロコムシ」を発見されましたが、まだまだ新たな生物も見つかりそうな気がします。小さいですがトイレもあるので観察会にはとてもありがたいです。駐車場はありませんので駅の近くに停めて歩いていきますが、その道のりにはアカテガニがいますし、シマヘビを観察したこともあります。潮がよく引く日でないとい磯へ下りられないため、毎年2月から10月の間に磯の観察会を開催しています。



長松海岸の磯



ナギナタコガネウロコムシ